

米子市立山陰歴史館

歴史館だより

2025. 4. 30 第13号



歴史館のマスコットキャラクター
れきくん しーちゃん かんくん

新米子市発足 20周年記念

企画展「新米子市ができるまで」

米子市の合併の歴史と発展を資料や写真で紹介しています。

【会期】
令和7年4月27日(日)～6月8日(日)

【開館時間】
午前9時半～午後6時
(午後5時半が最終入館時間です)

【休館日】
毎週火曜日、4月30日(水)、5月7日(水)
※ただし、4月29日(火・祝)と
5月6日(火・振)は開館

【会場】
米子市立山陰歴史館 1階第1展示室

【観覧料】
一般・300円
(15名以上の団体1名250円)
※70歳以上、大学生以下、障がいのある方(介護者1名含)は無料

【主催】
米子市・米子市教育委員会・
(一財)米子市文化財団[米子市立山陰歴史館]

新 任 挨 捶

このたび、小原前館長を引き継いで米子市立山陰歴史館の館長に就任いたしました。山陰歴史館は、大正 13 (1924) 年に旧淀江町に開館した山陰歴史館を前身として、昭和 15 (1940) 年に錦公園（現湊山公園）の商品陳列場 2 階に開館しました。初代館長は足立 正です。この歴史館は戦争の混乱期に一時休館しましたが、昭和 28 (1953) 年に城下町米子に現存する唯一の武家屋敷である旧小原家長屋門（後に米子市有形文化財）を利用して再開しました。私としても、この山陰歴史館が初めて米子の歴史文化を学ぶ体験の場でした。その後、昭和 59 (1984) 年に米子市役所旧館（米子市有形文化財）に移転して現在に至っています。この 85 年間、米子の歴史文化の魅力を掘り起こし、情報を提供してきた歴史館ですが、築 95 年の現在の建物の老朽化は著しく、資料を適切に保存し、来館者の便宜を図るために改修が課題となっています。米子市の近代化の象徴ともいえる歴史的建造物を保存しながら、さらに市民のみなさまに親しまれる歴史館として運営していきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

館 長 中 原 斎

第 51 回 「郷土の歴史教室」開催報告

米子錦ライオンズクラブの支援で、半世紀続けられてきた「郷土の歴史教室」が 51 回を迎え、令和 7 年 2 月 24 日、午前中に「ハスランタンづくり」、午後から「能楽」を体験するワークショップを米子市児童文化センターで開催しました。

「能楽」はユネスコ無形文化遺産に認定された、鎌倉時代から続いている日本の伝統芸能です。講師は京都観世流の橋本光史氏（重要無形文化財保持者）、河村和貴氏（重要無形文化財保持者）、橋本充基氏の三人で、米子で古くから、能の指導や公演をされるなど、米子に所縁のある能楽師です。

先生方には、「能楽」の解説をはじめ「能の舞」の所作や「謡」を子供たちに指導していただきました。子どもたちは、難しい能楽の所作を体験したり、能面をつけたりして、楽しみながら伝統文化のすばらしさを感じていました。



助成金寄贈式



謡の稽古



能面をつけてみる

展示・収蔵品紹介

2階 常設展示室

裁縫道具

歴史館2階の常設展示室では、明治・大正・昭和時代に使われていた様々な生活用具を展示しています。

ミシンが普及するまでは、針に糸を通して手で刺し縫いする手縫いが主流でした。

ミシンはイギリスで発明され、幕末に日本にもたらされました。大正時代になって大量生産されるようになり、ハンドルを手で回す「手回しミシン」から足踏ペダルで動かす「足踏みミシン」へと進化し、昭和39(1964)年に自動式ミシンが発売されました。

展示しているのは、針箱やくけ台、手回しミシン、足踏みミシンなどです。



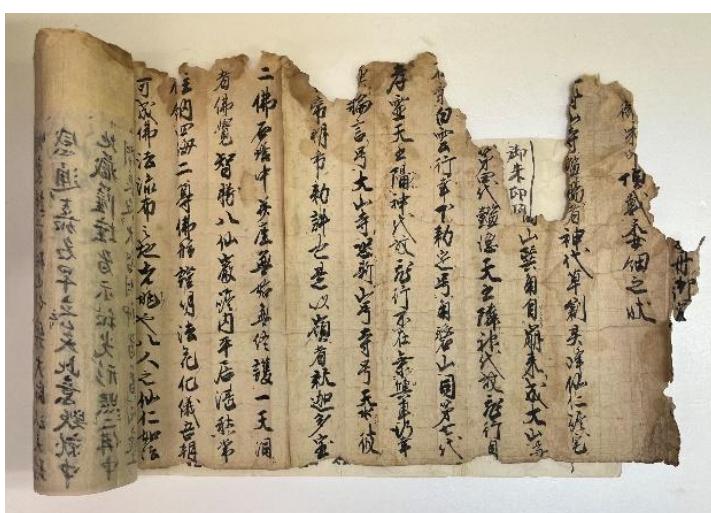
裁縫道具の展示

寄贈資料「畠中弘氏資料」の整理作業報告

～貴重な郷土資料研究の集積～

山陰歴史館が寄贈を受けた資料に、故畠中弘氏の貴重な研究資料があります。畠中氏は鳥取県立米子図書館の司書を皮切りに境港市立図書館長を務められ、また、淀江町誌や米子市史、境港市史の編纂などに委員等として執筆に携わられました。その研究範囲は中近世から近代と幅広く、地域的には県西部から松江にかけて、郷土の文芸、文学、民俗、歴史など多くの調査研究に取り組まれました。

また、淀江町郷土史俱楽部や古文書を読む会の指導に当たるとともに、各地の公民館での講座やサークルの講師を務められました。ご遺族から寄贈された膨大な図書や研究資料を、令和3年から整理しています。資料の中には大山で廃寺となった法雲院由来の古文書などがあり、慶長6(1601)年に幕府に寺領の安堵を願い出た「伯耆国角磐山大山寺牒」の古い写しも数点ありました。



「伯耆国角磐山大山寺牒」(写)

令和7年度の主な展示予定(4月以降)

| 事業名 | 内容・入館料・入館者数 | 開催日又は実施期間 |
|---|---|------------------------------------|
| 常設展 米子城展、昔の暮らし 展、 鉄道のまち 米子の歴史展 昭和の学校、弓浜絣展 | 国史跡米子城跡、尾高城跡、鉄道資料、民俗資料、昭和の学校、米子の遺跡など郷土の歴史を透して、人々の暮らしの様子を紹介しています。 観覧無料 | 通年・随時展示替 |
| 新米子市発足 20周年記念 企画展「新米子市ができるまで」 | 米子市の合併の歴史と発展を資料や写真で紹介する 観覧料：300円 | 4月27日(日)～ 6月8日(日) |
| 共催展 「鳥取藩主池田家墓所写真コンクール作品展」 共催:史跡鳥取藩主池田家墓所 保存会 | 池田家墓所写真コンクール入賞作品を展示する。 観覧無料 | 6月21日(土)～ 7月21日(月・祝) |
| 企画展「戦後80年 未来へ伝える昭和の戦争」 共催:米子市美術館、 米子市埋蔵文化財センター | 歴史館所蔵の戦中・戦後の資料や美術館の戦争を体験した芸術家の作品や写真を展示し、戦争の惨禍の記憶を後世へ引継ぐ機会とする。 観覧料：500円 | 7月20日(日)～ 8月24日(日) 会場:米子市美術館 |
| 昭和100年記念 企画展「米子の100年回顧展」 | 昭和元年から数えて100年を記念して、米子の100年の歴史を振り返る。 観覧料：300円 | 9月28日(日)～ 12月28日(日) |
| 企画展 「山陰歴史館から出発進行 ～鉄道資料で仮想旅行～(仮称)」 | 切符や時刻表、ヘッドマーク等の館蔵鉄道資料や写真を展示し、鉄道の旅の歴史を展示する。 観覧料：300円 | 令和8年1月18日(日) ～3月29日(日) |

米子市立山陰歴史館

開館時間 9:30～18:00 (17:30までに入館)

休館日：毎週火曜日、祝日の翌日、10月18日(土)、
年末年始(12月29日～1月3日)



〒683-0822 鳥取県米子市中町20番地

電話/0859-22-7161 fax/0859-22-7160

<https://yonagobunka.net/rekishi/>

E-mail: saninrekishikan@dear.net.jp [編集：中原]